

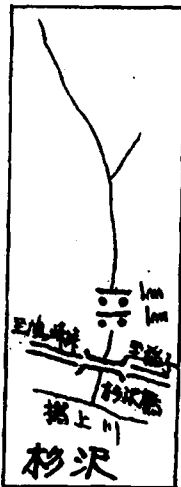
特集・摺上川流域の溪谷

1983年の記録から

杉 沢

1983年6月12日

L1



国道399号線ぞいの稲子部落を過ぎて少し進むと、小さな杉沢橋に着く。この橋のたもとから遡行を開始するが、沢幅は狭いし兩岸も低く平らな為、どうも沢登りという感じがしない。

何の変哲もない小沢を中程までつめた頃、突然目の前をカモシカが逃げていった。カモシカの方もこんなところで人間に会うとは思ってもいなかっただろう。

この先は、次第に水量も少なくなり、兩岸の木が生い茂ってトンネルのようになってきたので、10:20遡行を打ち切って、出発点に戻る。

結局、最後まで滝の1つもなく、春の小川といった感じの沢であった。

(配・

[タイム] 杉沢橋(8:55)→遡行中止点(10:20)→杉沢橋(11:30)

後沢左俣

1983年9月18日

ある地域の沢のすべてを遡行してしまおうという計画を実行していると、いずれは「この沢には滝などないはず」とわかっている沢にも入らねばならない時がくる。後沢もそうした沢の1つ。滝といえるものもないまま瀬頭に達してしまった。おまけに伐採・植林用の林道が沢と並行して走っているときた。とにかくこなさねばという使命感から遡行した1日だった。

8:35後沢橋より遡行開始。何もない沢を10分程歩いた所で猿の群れに会った。姿を確認したのは13頭であったが、鳴き声やブッシュの動きからしてもっと多くの群

れである。かんだかい警告の声をひびかせながら、ゆっくりと右岸の斜面を登っていった。

2mの小滝が出てきたので、直登する。左俣では唯一ともいべき滝だった。

しばらくしてまた猿に会う。今度は1頭きりで、尾根の上のトチの木に隠かっている。先ほどの群れと別れてから5分程しか経っていない。このあたりでみかける猿としては大きな方である。先ほどの群れの一部なのか、それともハナレザルなのか。距離があったこともあるが、逃げようとしなかった。

9:00二俣に着く。林道は左沢ぞいに入っているが、右沢方面にも植林地は広がっているようだ。左沢にルートをとる。

9:20沢は平凡なままでまた2つに分かれた。よっぽどこで帰ろうかと思ったのだが、やはり計画通り右沢の下降をやりようと思い直して、遊行を続ける。

9:30沢ぞいの林道は終点となったが、植林地はまだ奥へと続いている。沢の方はというと、これはもう細々とした流れでしかない。これはもうここまでと、右手の斜面を登り、尾根を越えて右沢の下降に移る。

10:00右沢の下降開始。右沢は全く平凡で、滝1つかからないままに15分で二俣まで下ってしまった。あとは林道に上がって、後沢橋をめざす。

帰途、またまた猿の群れに出会ってしまった。場所は今朝がたとほぼ同じ所である。11頭が視認できた。断定はできないが、朝方会ったのと同じ群れではないかと思う。トチの実やドングリを一生懸命食べていたようだ。

(記)

[タイム] 後沢橋(8:35)→右沢出合(9:00)→
左沢終了(9:30)→右沢下降開始(10:00)→下降終了(10:15)

後沢中俣

1983年9月18日

10:30遊行開始。出だしは晴い樹林帯の中

